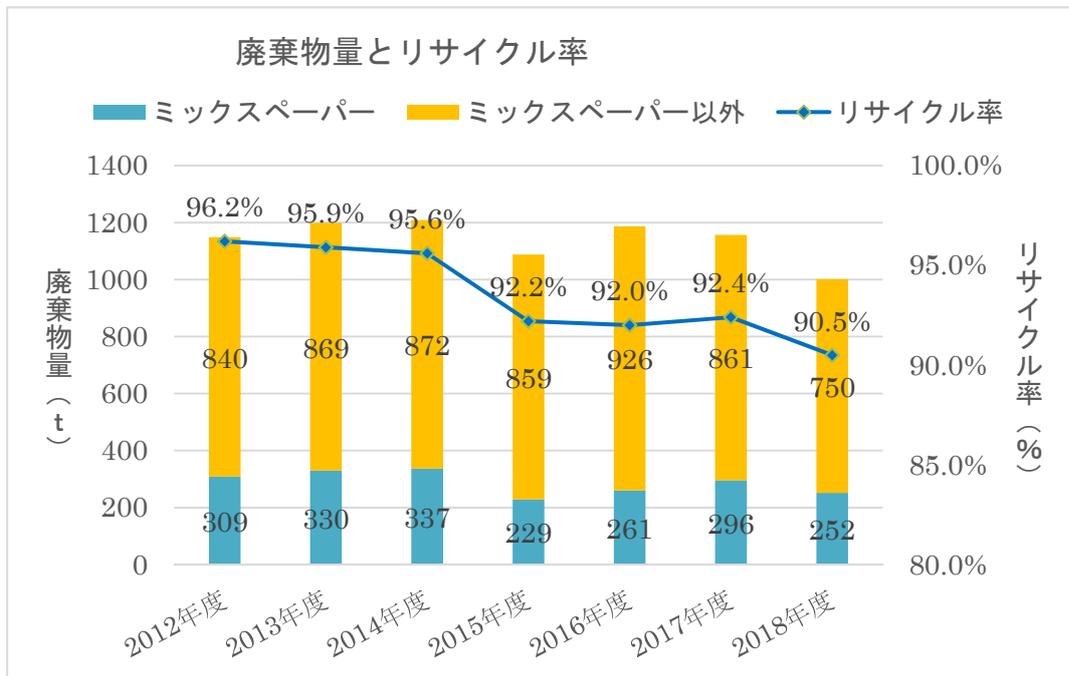


ごみの再資源化

【東京】

可燃物の生ごみ・紙管などのリサイクル(再利用)を実施し、本年度から可燃物のリサイクル率の数値目標を96%から92%に変更します。2015年6月から上質紙、中質紙、ミックスペーパーの紙類を有価物として取り扱うことにしました。それまで資源物として回収していたミックス古紙は紙資源として回収できない汚れた紙や一般廃棄物の混入が重量で全体の約4%あり、15年7月から燃えるごみの扱いにしました。

有価物の回収には、ごみの分別の徹底などの取り組みが欠かせません。廃棄物の発生抑制とともにリサイクルを進めていきます。



本年度は、リサイクル率92%と、ごみ排出量の3%減を目指します。目標達成のための具体的な取り組みとして、

- ①ごみ分別・減量を社内及びテナントにPRする。
 - ②コピー・印刷時の裏面活用の徹底。
 - ③資料配布、電子データのプリントアウトを極力少なくする。
- を掲げています。

東京本社の本館や新館の廊下や室内の分別容器、リサイクルボックスに捨てられたごみは、新館地下1階の「資源活用センター」に集積されます。ここで紙類、不燃物、プラスチックごみ、生ごみなどをさらに細分化した種類に分別収集をして保管します。このごみは再生資源物ですので、その種類ごとに回収業者を通じて最終的な持ち込み先に渡します。

また産業廃棄物は処理を業者に委託する際に、マニフェスト(産業廃棄物管理票)に、産業廃棄物の名称、数量、運搬業者名、処分業者名などを記入し、産業廃棄物の流れを自ら把握・管理するマニフェストシステムというしくみが定められています。処理業者から処理業者へ、産業廃

棄物とともにマニフェストが渡されて、それぞれの処理終了後に、各業者から処理終了のマニフェストを受け取ることで、委託内容どおりに廃棄物が処理されたかを確認します。

東京本社的一般廃棄物

| 種 類 | | 年度区分 | 前年度実績(H30年 4月 ~H31年 3月) | | | | |
|-------------------------|-----------------------|-----------------|---------------------------|---------|--------|-------------------|---------|
| | | | 発生量 (A) | 処 理 区 分 | | 再利用率 (B÷A×100) | |
| | | 再利用率(B) | | 廃棄量(C) | | | |
| 事業系一般廃棄物 | 可燃物 | ①機密文書(一括処理文書)等 | 9.7 t | 9.7 t | 0.0 t | 100.0 % | |
| | | ②雑誌、パンフレット、色付き紙 | 35.0 t | 35.0 t | 0.0 t | 100.0 % | |
| | | ③新聞紙、折込チラシ | 423.5 t | 423.5 t | 0.0 t | 100.0 % | |
| | | ④段ボール | 37.6 t | 37.6 t | 0.0 t | 99.9 % | |
| | | ⑤ミックスペーパー | 252.6 t | 252.6 t | 0.0 t | 100.0 % | |
| | | ⑥その他(再生に適さない紙類) | 32.6 t | 0.0 t | 32.6 t | 0.0 % | |
| | 紙 類 小 計(①~⑥の合計) | | 791.1 t | 758.4 t | 32.7 t | 95.9 % | |
| | その他 | ⑦生ごみ(残飯、茶殻、吸殻等) | 70.9 t | 36.3 t | 34.6 t | 51.2 % | |
| | | ⑧木、草、繊維等 | 3.8 t | 0.0 t | 3.8 t | 0.0 % | |
| | | そ の 他 小 計(⑦+⑧) | 74.7 t | 36.3 t | 38.4 t | 48.6 % | |
| | 可 燃 物 合 計(①~⑧の合計)…(a) | | 865.8 t | 794.7 t | 71.1 t | 91.8 % | |
| | 不燃物・焼却不適物 | 再生利用物 | ⑨飲食用びん類 | 32.8 t | 16.4 t | 16.4 t | 50.0 % |
| | | | ⑩飲食用缶類 | 34.1 t | 27.0 t | 7.1 t | 79.2 % |
| | | | ⑪ペットボトル | 66.0 t | 66.0 t | 0.0 t | 100.0 % |
| | | | ⑫食用油 | 0.0 t | t | t | % |
| ⑬弁当がら | | | 0.9 t | 0.0 t | 0.9 t | 0.0 % | |
| ⑭その他 (PPバンド・PEフィルム) | | | 2.4 t | 2.4 t | 0.0 t | 100.0 % | |
| 不燃物・焼却不適物合計(⑨~⑭)の合計…(b) | | 136.2 t | 111.8 t | 24.4 t | 82.1 % | | |
| ⑮特定の事業活動に伴う可燃物…(c) | | 0.0 t | t | t | % | | |
| 総合計 (a) + (b) + (c) | | 1,002.0 t | 906.5 t | 95.5 t | 90.5 % | | |

【大阪】

大阪本社がある中之島フェスティバルタワー（NFT）で発生する廃棄物の量はビル全体で計測しているため、大阪本社のみデータは把握できません。NFT全体で廃棄、再資源化したごみの量は表のとおりです。

■中之島フェスティバルタワーで発生した廃棄物の量と資源化率(2018年度)

朝日ビルディング調べ

| | 廃棄した量 トン/年 (A) | 再生に回った量 トン/年 (B) | 合計 トン/年 (C)=(A)+(B) | 資源化率% (B/C× 100) | 2017年度 資源化率 % |
|------------------------|----------------------|------------------------|---------------------------|------------------------|---------------------|
| OA紙 | | 62.3 | 62.3 | 100% | 100% |
| その他の紙(OA紙以外) | | 120 | 120 | 100% | 100% |
| 機密書類(シュレッダー紙含む)* | | 65 | 65 | 100% | 100% |
| 新聞紙(折込広告含む)* | | 51 | 51 | 100% | 100% |
| 雑誌* | | 30 | 30 | 100% | 100% |
| 段ボール | | 98 | 98 | 100% | 100% |
| 再生可能な紙類の合計 | | 426.3 | 426.3 | 100% | 100% |
| 再生に適さない紙 | 79 | | 79 | 0% | 0% |
| ①紙類の合計 | 79 | 426.3 | 505.3 | 84% | 84% |
| 厨芥(茶殻・残飯・魚あら等) | 141 | | 141 | 0% | 0% |
| びん | | 22 | 22 | 100% | 100% |
| ガラスくず等(ガラス、コンクリート、陶磁器) | 0.5 | | 0.5 | 0% | 0% |
| 缶 | | 3 | 3 | 100% | 100% |
| 金属くず | | 0.9 | 0.9 | 100% | 100% |
| プラスチック類(ペットボトル・ビニール袋等) | 30 | 35 | 65 | 54% | 86% |
| その他の一般廃棄物(上記以外のごみ) | 16 | | 16 | 0% | 0% |
| その他の産業廃棄物(上記以外のごみ) | 26.6 | 0.5 | 27.1 | 2% | 1% |
| ②紙類以外の合計 | 214.1 | 61.4 | 275.5 | 22% | 30% |
| 総合計(①+②) | 293.1 | 487.7 | 780.8 | 62% | 65% |

※:大阪本社から排出される機密書類、新聞紙、雑誌類は含みません。43ページの表をご参照ください。

プラスチック類の資源化率が54%で、前年度の86%から大きく落ち込みました。中国が廃棄物輸入禁止策をとったため、2017年度末頃から焼却処理に回る量が増加しているとのことです。

上記以外に、機密書類、新聞、雑誌類は、大阪本社が独自に回収・廃棄、リサイクルしています。次の表のとおり、資源化率は100%でした。

■朝日新聞大阪本社の廃棄物と資源化率(2018年度)

大阪管理部調べ

| | 廃棄した量 (t/年) (A) | 再生に回った量 (t/年) (B) | 合計 (t/年) (C)=(A)+(B) | 資源化率% (B/C× 100) | 2017年度 資源化率 % |
|------------|-----------------------|-------------------------|----------------------------|------------------------|---------------------|
| 機密書類(溶解処理) | 0 | 12.1 | 12.1 | 100% | 100% |
| 新聞紙・雑誌類 | 0 | 153 | 153 | 100% | 100% |
| 合計 | 0 | 165.1 | 165.1 | 100% | 100% |

■使用済み食用油の回収(2018年度)

中之島フェスティバルタワーおよび同ウエストでは、株式会社レポインターナショナルと契約し、飲食店から出る使用済み食用油を回収してバイオディーゼル燃料に再生してもらっています。18年度の回収量は合計22,460Lでした。再生されたバイオ燃料は一部の新聞輸送車に使用しています。

【西部】

西部本社社屋(リバーウォーク北九州)から出されたごみは可燃物が7.1tで前年比33.6%の減でした。びん・缶・ペットボトルの1.1t(31.2%減)、古紙の2.4t(63.6%減)は100%再資源化しています。生ごみは地下1階の共用保冷庫、それ以外は同じ地下1階の朝日棟用分別用容器に搬入し、分別ごみは市の委託を受けた業者が分別種別ごとに毎日回収しています。

福岡本部の一般ごみは「紙、びん・缶・ペットボトル、燃えないごみ」などに分別して出し、朝日ビルディングが処理。プリンタートナー等は業者引き取り。また、引っ越しやレイアウト変更時の什器類処分についても、業者引き取りの方法をとっています。

西部本社、福岡本部共に産業廃棄物についてはマニフェスト管理しています。

【名古屋】

名古屋本社の2018年度に発生した廃棄物は79.8tで、17年度比で約1%減となりました。廃棄物のうち大半が紙類で、OA用紙3.8t、新聞・雑誌・段ボール55.2t、機密書類2.0t、雑古紙6.9tの計67.9tでした。これらの紙類については資源化率100%。雑古紙は年々増えています。これについては、分別が適切に行われ、リサイクル率が上がってきていると考えられます。全体の資源化率は前年度と比較して0.8%ダウンの86.1%。今後もごみの減量と再資源化のための分別を呼びかけていきます。

【北海道】

支社のごみはさっぽろ創世スクエアへの移転に伴い、自社での回収、再資源化から、原則としてビル管理会社を通すことになりました。支社では通常の入居オフィスと同様にごみの分別、プラスチック容器・ペットボトルやびん・缶のリサイクルを行うことに加え、業務上大量に発生する古新聞、紙ごみについてはビルの清掃業者とは別に独自にリサイクル業者に回収を依頼し、売却しています。